



スキーのジャンプ台を思わせる片流れの屋根。奥行き3mに及ぶ軒は、デッキを雨から守り、真夏の強い日差しを遮ってくれる。



ゆとりある敷地のT邸。建物を敷地の北側に寄せるように建てることで、南側には広い芝生の庭を設けた。ウッドデッキ周りの外壁にはパイン材を張り、より木の質感が楽しめる空間とした。

四季を通して使えるデッキの造りを

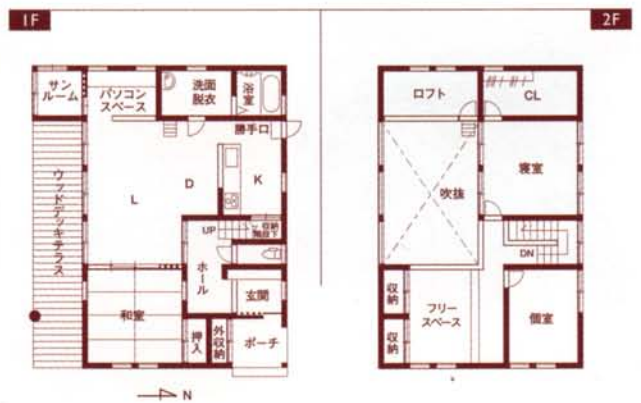
せっかくのデッキも、たまにバーベキューをするだけで、使われずまいではもったいないですね。デッキは四季を通して、季節ごとの使われ方、楽しみ方が出来る造りにすることが大切です。そういった点で屋根があることが大変重要だと考えます。屋根があれば、雨の日でも活用できますし、夏の日差しを遮ることができ、デッキ空間をより多目的に使えます。

BGM建築設計 馬場 弘勝さん

室内を貫くように通る登り梁。吹き抜けに面して配された窓によって、リビングからも梁が連続して通っている様子がよくわかる。



屋根の形を活かした開放的なリビング。ロフトのほか、TVボードの奥には約4帖のパソコンスペースが備わる。



data

設計 ■ BGM建築設計
住所 ■ 野々市町栗田1-118
TEL ■ 076-248-2040
URL ■ <http://www2.ocn.ne.jp/vava/>
施工 ■ (有)馬場建設
TEL ■ 076-248-0552

家族構成 ■ 夫(33歳) 妻(35歳)
長女(6歳) 長男(2歳)
敷地面積 ■ 420.54㎡(127.21坪)
1階面積 ■ 79.50㎡(24.05坪)
2階面積 ■ 59.63㎡(18.04坪)
延床面積 ■ 139.13㎡(42.09坪)
工法 ■ 木造在来軸組工法
竣工 ■ 2003年4月
建ぺい率 ■ 60%地区
容積率 ■ 200%地区



芝生の庭、ウッドデッキ、そしてリビングが緩やかにつながるT邸。2階から庭を眺めたときに、隣家のエアコンの屋外機などが視線に入らないよう計算して屋根の角度や丸太の縁桁の位置が決められた。



切り出した杉で造られたデッキテラスは、奥行き1.8m、長さ9m。極木の杉の丸太を用いた縁桁はT邸のシンボル。

大迫力の丸太がシンボル。 人が自然と集うデッキのある家

白山市_Tさんのお宅

■延床面積_約42坪

■設計_BGM建築設計 ■施工_(有)馬場建設

構造材の大半は
自己所有の杉を使用

Tさんが高校の同級生であった馬場さんに依頼した住まいのイメージは、構造材として実家の山にある木を使いたいということ、屋根は「ザバツ」とした感じで、庭は広く、だっただけです。この大胆な依頼に対して馬場さんは実際に山を見て、構造材として使い、切り出せる杉13、14本を選択。こうして杉の伐採からT邸の施工は始まりました。

屋根の形に対する施主の想いを馬場さんは、大きな片流れの屋根で形にします。「施主の要望は自己所有の木を使うこと、屋根の形と少なかったのですが、それを実現するために、この家の大半は形づけられました」

と馬場さん。そして、そこには大迫力の丸太の縁桁と柱があてがわれた奥行き1・8m、長さ9mというテラスが盛り込まれました。この丸太と住まいを貫く力強い登り梁は、T邸を象徴するまさにシンボルです。

GW期間中にパーベキューをするのが恒例行事で、参加者は毎年増えているそう。人が自然と集まるのは、Tさんの人柄に加えて、T邸のデッキに引き付けられているからかもしれません。

CASE 1